

# 成人看護学実習

単位数（時間数）：4 単位（180 時間） 必修/選択：必修 履修年次：3 年次 開講時期：通年

科目責任者（職位・氏名）：准教授・石井真紀子

科目担当者（職位・氏名）：助教・添田咲美、助教・吉岡智大、助教・窓岩由実  
助手・大森かすり

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：65

## ■ 授業概要

健康障害をもつ成人期以降の対象およびその家族と援助関係を形成し、人生や価値観を尊重した健康生活のあり方を支援し、対象およびその家族意思決定を支援するために、問題解決プロセスを用いて看護を実践する基礎的能力を養う。そして、対象者の最善の利益にかなう看護を実践するためのケア・スピリット（倫理的な姿勢）の強化を図る。

## ■ 到達目標

1. 対象の健康状況が身体・心理・社会的側面に及ぼす影響を理解できる。
2. 慢性期または慢性疾患や身体侵襲を抱える対象が症状をコントロールし、対象とその家族が障害・状態や生活の制限を受け入れながら日常生活が送れるよう看護を展開することができる。
3. 急激に健康状態が変化している（手術・治療による侵襲、急性発症など）対象とその家族に対し、看護過程を展開できる。
4. 対象とその家族を支えるために関わる多職種の役割と、多職種の連携について理解することができる。
5. 専門職者としての倫理的責務にもとづき、看護学生として適切に判断・行動することができる。

## ■ 教育内容

成人看護学

## ■ キーワード

看護過程 意思決定支援 教育的役割 慢性看護 急性期看護

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

月・日（曜日）	授業内容・授業方法	担当
<p>【前期】 2025年 6月9日（月） ～ 8月1日（金）</p> <p>【後期】 2025年 11月10日（月） ～ 12月19日（金）</p>	<p>&lt;実習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期と後期に2週間、計4週間の実習を行う。</li> <li>2. 慢性疾患又は慢性的な経過を辿る患者1名以上、急性期あるいは周術期にある患者を1名以上受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>3. 患者とともに実習場所（手術室、ICU、HCU、リハビリ室等）を移動し、学びを深める。</li> <li>4. 可能であれば手術の見学を行い、術前、術中、術後の一連の看護を経験する。</li> <li>5. 多職種連携の実際を見学し、多職種連携の意義と必要性を考える。</li> <li>6. 患者の家族や患者を取り巻く人々にも視点を向け看護のあり方を考える。</li> <li>7. カンファレンスは、グループ全員が主体となって運営し、積極的な意見交換をし、チームの一員としての役割を果たす。</li> </ol> <p>詳細は「成人看護学実習要項」参照</p>	<p>共同</p>

## ■ 履修条件

療養援助実習、成人看護学概論、成人看護援助論、慢性期看護論、急性期看護論の単位を修得していること。

## ■ 成績評価方法

成人看護学実習評価表に沿って、実習内容、実習記録、実習目標到達度等を総合的に評価する。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・担当教員や実習指導者は、受持ち患者に適した看護を提供できるよう看護過程の修正や変更について助言する。
- ・実習最終日には、担当教員と共に実習の学修成果と今後の課題を振り返る。

## ■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』全巻 メディカ出版

## ■ 参考書・参考資料等

- ・高木永子監（2018）『看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント』Gakken
  - ・伊豆津宏二他編（2025）『今日の治療薬 2025 解説と便覧』南江堂
  - ・大滝周、大木友美編著（2018）「周術期看護 学習ワークブック 第1版」メヂカルフレンド社
- 参考書・資料については、各担当教員から紹介がある。

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・実習前：実習オリエンテーションで必要事項について担当教員から指示される（90分）。
- ・実習後：その日の援助を振り返り、翌日の行動計画を立案する（30分）。  
看護実践の根拠となるアセスメント、関連図・全体像、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施後の評価を必要に応じて記述する（60分）。

## ■ 担当教員からのメッセージ

成人看護学実習要項を熟読し、日頃から体調を整え実習に臨むこと。

バイタルサイン測定や日常生活援助に関する援助技術など基本的な看護技術は、空き時間を利用して主体的に復習すること。

提示された患者情報から病態を理解し、アセスメントの視点を明確にして実習に臨めるよう事前学習を行うこと。

これまでの臨地実習や学内演習などを通して自己の課題を明らかにし、その達成に向けて取り組むことを希望する。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

実習オリエンテーションの際に、欠席や遅刻等の連絡方法を提示します。

緊急時の連絡については災害時ポケットマニュアル参照。

## ■ 担当教員の実務経験の有無

有

## ■ 担当教員の実務経験

看護師

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

## ■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

## ■ 実務経験を活かした教育内容

臨床で生じる様々な事象について学生の理解が深められるよう専門的な知識をもとに意味づけして説明し、対象理解や援助の必要性につなげられるように実施しています。